

新型コロナウイルス感染症により部活動の集大成の場が失われた子ども達への支援を求める意見書

新型コロナウイルス感染症に関して、愛媛県下においては、知事を先頭に医療・保健分野等関係各位のご尽力により感染症の封じ込めに成功し、三密を避ける新たな生活様式の中、市民生活の日常が回復しつつある。また、5月下旬から県立学校も再開され、各地域の小中学校でも新1年生も学校生活に慣れ、通常の学校現場が戻ってきた。今後、第二波、第三波感染の対策も講じながらも、傷ついた地域経済や市民生活などの各分野の復興に向け、中長期的な取り組みに一層のご尽力を願うところである。

さて、コロナ禍の影響は甚大であり、県内においても様々な大会やイベントが中止を余儀なくされている。学校教育の現場では、長年の歴史を有する、第74回県高校総合体育大会、第72回県中学校総合体育大会、第102回全国高校野球選手権大会愛媛県大会、並びに吹奏楽や合唱コンクールなどが「子ども達のいのちを守る」ことを最優先として軒並み中止となった。やむを得ない措置と理解するが、日々の苦しい練習に耐え、切磋琢磨し苦楽を共にしたチームメートや厳しい中にも温かく包んでくれた指導者、日常の食事など裏方で支えてきた保護者の姿を含め、さまざまなシーンが我々自身も実体験を通じて想起できる。とりわけ、感染症拡大の懸念により、公式試合はもとより練習試合さえもできず、このまま部活動引退に追い込まれてしまう3年生の心情を察し、何らかの代替措置を求める市民の声が我々のもとに多く寄せられている。

萩生田文部科学大臣は、インターハイ、夏の甲子園開催中止が決まった後の記者会見で「生徒を思いやるとかけるべき言葉が見つからないほど心が痛む」と、厳しい状況の生徒をいたわりつつ、代替となる大会の開催を後押しする考えを示した。鳥取県は、県高校野球連盟や県高校体育連盟が県独自の代替大会を開催するための補助金約1000万円の補正予算案を県議会6月定例会に提案した。佐賀県では高校総体の代替大会を6月20日、21日に開催する方向で準備が進んでおり、静岡県や宮城県では中高連携あるいは競技別に代替大会の開催について検討を進めている。

そこで、3年生の進路・進学等教育現場の今後のスケジュールを鑑みると、「大人の責任と

して、今こそが動く時」との思いから、県においては、多面的に大きな教育効果が期待できる部活動の集大成の場を提供することに関して、以下のとおり支援するよう強く要望する。

1. 県規模での代替大会の検討をすること。
2. 地区大会や種目別大会等の開催に向けての支援をすること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和2年6月12日

愛媛県松山市議会

愛媛県知事 中村時広様